

新町 市川佐五左衛門信任和算資料

新町市川家（京屋）で守り継がれてきた佐五左衛門信任関連を中心とした和算資料 80 点である。このうち 30 点以上が広島出身の遊歴和算家・法道寺善の手に依る筆写本で、本資料群を特徴付けている。

資料群の中で最も年代が古いのが『問地割』（51-71）で、西澤佐五左衛門が安永 3 年（1774）に著したものである。佐五左衛門は宝暦 4 年（1754）に北日名の西澤家に生まれ、関流和算を身に着けた。新町の市川家に養子に入って市川家 6 代目となり、佐五左衛門蔦行といった。

次に古いのが享和 4 年（1804）の『開平法』（51-42）で、市川因真が著したものである。因真は新町市川家 5 代目の勘十郎で、享保 10 年生れ、文化 2 年に 81 歳で没している（1725－1805）。

市川家における和算の始まりは、勘十郎因真かあるいは、佐五左衛門蔦行が養子となったころと考えられる。

9 代目の市川佐五左衛門信任は、菱田與左衛門と共に文久 3 年（1863）に坂城神社、慶応元年（1865）に北日名の天幕社に算額を奉納した和算家で、文政 12 年（1829）に生れ、幼名を勘重郎といった。弘化 3 年（1846）に 18 歳で『算法記』を著している。法道寺善との交流は、『関流算法天元術 初心手引』（51-30）

の存在から、安政 2 年（1855）には始まっていたとみられる。以降、慶応元年まで約 10 年にわたり算法の伝授を受け、ついには算額を奉納するまでに至った。

法道寺からは多くの自筆本を授与されており、特に安政 6 年のものが多い。当地域における法道寺の足跡を明らかにするうえでも貴重である。

なお、本資料群は市川信一氏によって付番・整理されていた。当目録はこれに沿って作成したものである。